

《令和5年度 教育目標》
夢や志の実現に向けて
－ふるさとを愛し、夢に向かって努力を続ける生徒の育成－
《校訓》自主（知） 友愛（徳） 練磨（体）

平素は、本校教育にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本校は、今年で創立76年目を迎えます。新型コロナウイルス感染症が流行してから3年が経過し、まだ感染対策を講じながらではありますが、ようやく学校に、子供たちに活気と笑顔が戻ってきたように感じています。

そのような中、本年度の学校教育目標として、「夢や志の実現に向けて」－ふるさとを愛し、夢に向かって努力を続ける生徒の育成－を掲げ、日本はもとより、世界的にも不安定で先が見通せない時代が到来してきていますが、そのような時代だからこそ、子供たちが将来の夢や希望に向かっていけるよう、子どもたちの笑顔や成長のため全職員一丸となって教育活動を進めてまいります。

今年も、一層のご理解とご支援をお願いいたします。

【令和5年度を迎えて】（式辞より）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

そして、新2年生、新3年生の皆さん、進級おめでとうございます。

いよいよ、新年度が始まりました。初日、皆さんは、心新たに、やる気を持って登校してきたことと思います。その、今の気持ちを忘れず、この一年間も頑張ってもらいたいと思っています。

さて、新年度のスタートにあたって、君たちに伝えたいことがあります。皆さんも知っている通り、3月に行われた、ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）のことです。日本代表「侍ジャパン」が、前回王者のアメリカを破り、14年ぶり3回目の「世界一」となりました。この「世界一」は、日本選手全員がチーム一丸となって、勝ち取った結果です。その原動力となったとも言える、印象に残ったことがあります。準決勝のメキシコ戦、9回裏、最後の攻撃で、トップバッターである大谷選手が、2塁打を放ち、ベース上で、日本代表のベンチに向かって、両手を大きく広げて手招きするような仕草をしたことです。そのことが、侍ジャパンのメンバーの気持ちを奮い立たせ、それまで不調だった村上選手の2塁打となり、逆転サヨナラ勝利につながったことです。試合後に、大谷選手は、「気持ちが折れかかった時もあったが、最後まであきらめず、全員で頑張った」「誰かが誰かをカバーするのが野球」「『つないでいくこと』や『仲間を信じること』が大切である」とコメントされていました。この言葉の通り、「チームのために全力を尽くす」こと、そんな姿勢は、何かを成し遂げようとする時には、最も大事になってくる事だと感じました。

皆さんも、この侍ジャパンのように、「チーム新宮中として」、本校の伝統を、「つなぎ」、この新宮中学校を さらに素晴らしい学校へと築きあげてほしいと思います。

さあ、新しい学年のスタートです！！

「自分の力」を信じて、未来の新宮中学校を、共に創っていきましょう。

令和5年4月17日

たつの市立新宮中学校
校長 圓田 雅也